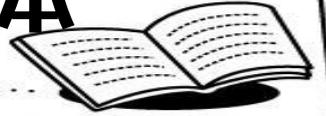


こんな本もオススメです！

# 手紙&切手の本

展示期間 2014年5月17日(土)～6月15日(日)



## 『手づくりする手紙』

木下綾乃／著  
文化出版局 2007

イラストレーターである著者は、ひと手間かけた手紙を出すことが好き。裏返し封筒や記念日の封筒、窓付き封筒の作り方を紹介。「封筒や切手、はんこでおめかしして…かわいい手紙に旅をさせましょう」という著者の想いが伝わるかわいらしい本。

## 『雪は天からの手紙

中谷宇吉郎エッセイ集』(岩波少年文庫)  
中谷宇吉郎／[著] 岩波書店 2002

どこかで「雪は天からの手紙」という言葉を聞いたことがあるだろうか？これは、1900年生まれのパ物理学者、中谷宇吉郎が、その著作『雪(岩波文庫)』の中で使った言葉。その後、著者は求められると、この言葉を書くようになったという。雪の研究を、天からの手紙を読み解くことになぞらえたロマンチックな言葉。

エッセイ集である本書からは、寺田寅彦の弟子でもあった、中谷宇吉郎の人となり、科学という目線を通して伝わってくる。

『日本切手カタログ』日本郵便切手商協同組合カタログ編集委員会／編集  
日本郵便切手商協同組合

『さくら日本切手カタログ』日本郵趣協会

それぞれ、毎年刊行されている切手カタログ。日本の切手が、明治時代から発行年順に掲載されている。じっとデザインを眺めているだけでも切手好きにはたまらない一冊。

## 『植村直己 妻への手紙』

植村直己／著  
文芸春秋  
2002

日本人初のエベレスト登頂をはじめ、世界初の五大陸最高峰登頂者でもある植村直己がその妻、公子さんに送った手紙。彼と暮らしたのは実質5、6年という彼女が「一つくらい私の勝手を許してもらいましょう」と公開した手紙たち。物理的な距離を埋めるかのように彼が遠征先から綴った想いは、マッキンリーで消息を絶った30年後も伝わってくる。

## 『あしながおじさん』

ジーン・ウェブスター／作  
谷口由美子／訳  
岩波書店 2002  
(岩波少年文庫)

ストーリーは、みなさんご存じの有名なお話。孤児院育ちのジュディが、その支援者である「あしながおじさん」へ書いた手紙で構成されている物語。

訳者が「手紙の書き方はすべてこの本で教わった」というほど実にいろいろなタイプの手紙が登場する。

この本の、ユーモアたっぷりの挿絵は作者自身が描いたもの。

翻訳者や装丁の異なる『あしながおじさん』を、読み比べてみるのもオススメ。

## 『ラブレター』

岩井俊二／著  
角川書店  
1995

逝ってしまった恋人宛に手紙を投函した渡辺博子は、返信を受け取る。悪戯かと思ったが、彼だったら良いのに…と思わずにはいられず返事を書く博子。神戸と北海道を行き来する手紙。

見知らぬ？2人の手紙のやりとりを中心に描かれる恋物語。

図書室の図書カードに込められた想いもまた、タイトルを彷彿とさせる。

『てがみはすてきなおくりもの』 スギヤマカナヨ／著 講談社 2003

子ども向けの本だが、実際に郵送した様々なものが写真や絵で紹介されていて楽しめる。紙皿や大きな貝殻、葉っぱに切手を貼って送る。あなたの身の回りにも送ってみたいものが見つかるかも？！  
「こんな手紙も送れるかな？と思ったら郵便局で聞いてみよう」とは著者からのアドバイス。

『絵封筒をおくろう』

きたむらさとし／[編] 著  
文化出版局 2007

絵本作家であるきたむらさとし氏が、編集者や作家、アーティストと送りあった絵封筒を中心に構成された一冊。絵封筒とは、封筒に絵を描いて送るもの。便宜上貼るはずの切手が絵の中核を担い、素敵な絵封筒が仕上がっている。まさにアートと呼べる作品から、クスリと笑える作品まで、様々。あなたも手持ちの切手を使って絵封筒を描いてみませんか。

『おり手紙

折ってわたせる33の手紙』  
ショートケーキ／著 飛鳥新社 2013

学生時代、授業中に回ってきた手紙が複雑に折られていて、読んだ後に元に戻せなかった！なんて経験のあるそこのあなた！この本を読んで勉強(?)しませんか。シャツやリボン、ねこにブタ、星型も！好きなあの子に送る時には、もちろんハートで。



『戦国武将の手紙を読む

浮かびあがる人間模様』  
小和田哲男／著 中央公論新社  
2010

大学で古文書入門の授業を教えていた著者が、20の戦国武将の手紙を原文、翻刻、現代語訳とともに解説。右筆の書のみならず、自筆の書も掲載されており興味深い。

『新・風景スタンプ集

北陸・東海・近畿』  
友岡正孝／協力 日本郵趣出版 2012

日本各地の郵便局で、その地域特有のデザインを施している風景スタンプ（風景印）。郵送せずに、押印後に返してもらう方法もある。切手のデザインとの合わせ技で粋な演出をすれば、旅先から素敵な手紙を送ることもできる。

『世界最高額の切手「ブルー・モーリシャス」を探せ！

コレクターが追い求める「幻の切手」の数奇な運命』  
ヘレン・モーガン／著 光文社 2007

高額な切手の代名詞として名高い「ブルー・モーリシャス」。1840年代、モーリシャスで開催された舞踏会の招待状からスタートし、各コレクターたちの手に渡っていく歴史を紐解く一冊。郵趣家（フィラテリスト）と呼ばれる本格的な切手愛好家たちの熱狂ぶりに驚かされるが、そのドラマチックな展開に読者はワクワクするはず。さまざまな憶測や噂が飛び交い、時代を経てブルーモーリシャスは今どこに？誰の手中にあるのか？気になる方はぜひ！  
巻末の用語集で、切手収集に関する言葉をチェックしてから読むのがオススメ。

『ムーミン童話全集 2』 たのしいムーミン一家

トーベ・ヤンソン／作・絵 山室静訳 講談社 1990

ムーミンシリーズの2作目にあたる本書で、ヘムレンさんは絶望感を味わいます。なぜなら切手のコレクションが完成してしまい、集める人ではなくなったから。いったい次は何をしたらいいのかと途方に暮れるヘムレンさんに、ムーミンたちは蝶や珍しいボタン、映画スターのプロマイドの収集を提案。この原作が書かれたのは1948年、フィンランド。時代や国が違って、切手のコレクションにまつわる話には事欠かないことが分かる。

切手の次にヘムレンさんが集めることにしたのは？ それは読んでみてのお楽しみ♪